

東邦大学医学メディアセンター本館における 改修前後の入館者の分析

村上 千晶

東邦大学医学メディアセンター

東邦大学医学メディアセンター本館（以下、当館）は2017年9月～2018年2月にかけて大規模な改修を行い、2018年3月に新しい環境でのサービスを開始した。これまで約30年間1階と2階の2フロアに分かれた構成になっていたが、全機能が1階部分に移り、隣接していた学生用自習スペース（自修館）を取り込んで1フロアの構成となった。延床面積は約1割減少したが、座席数は約1割増加した。また、書架の配置を変更したほか、小説などの一般書を利用できるコーナーや、展示のための空間を新たに設置した。改修前の2016年度年間入館者数は約8万4千人であったが、改修後の2018年度は約14万7千人となり、約1.7倍であった。本研究では、この利用者の増加に着目し、利用者層と滞在時間がどのように変化したかを明らかにする。

調査には入退館ゲートのデータを用いた。当館の入退館ゲートは、入退館時に利用者がかざす身分証を読み取り、入退館時間と利用者の識別情報を記録する。これらの記録から利用者属性別の入館者数、ユニーク利用者数、滞在時間を算出し、改修前後で比較した。

図1は、2016年度を1としたときの2018年度の入館者数の比を、利用者属性別に示したものである。学生については、医学部学生が2016年度の約1.8倍、看護学部学生が約3倍となり入館者数が増加していたが、習志野キャンパス所属の学生は減少していた。学部教職員については、医学部は約1.3倍となっていたが、看護学部と習志野キャンパス所属の教職員は減少していた。病院教職員は、大森病院が1.1倍、大橋病院と佐倉病院が1.6倍で、3病院ともに増加していた。これらのことから、改修によって利用者の変化があったことは明らかである。

結果のより詳しい分析ならびにユニーク利用者数、滞在時間等の分析については、当日ポスターで発表する。

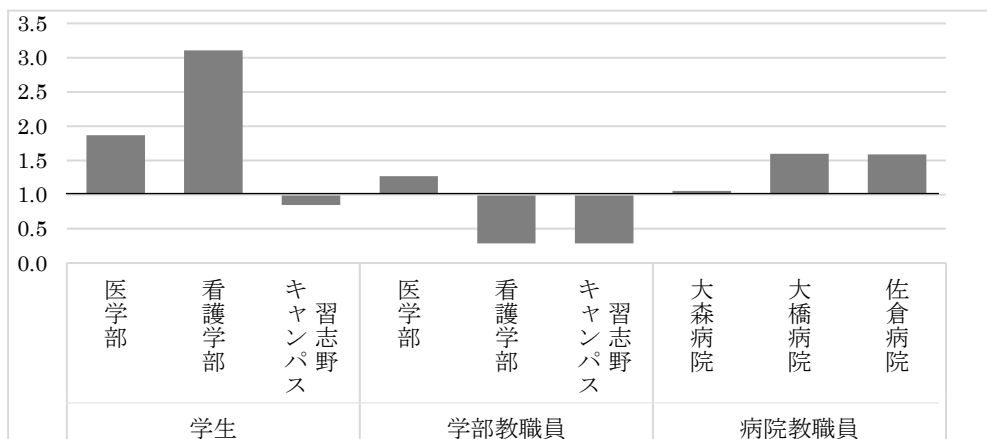


図1 2018年度利用者属性別入館者数 対2016年度比